

平成29年度予算の要求について(ポイント)

◎ 構造的財源不足はゼロとなったが、平成29年度の財政環境は引き続き厳しく、予断を許さない状況（要調整額は約32億円）

- 平成17年度予算編成前の段階で約400億円と見込まれた財源不足については、職員数の削減・公の施設の見直し、マイナスシーリングの設定による事務事業の見直しなど徹底した行財政改革により、平成28年度当初予算編成において解消。
- しかしながら、平成29年度は、消費税・地方消費税の10%への引上げが再延期される一方で、国の財政健全化目標は堅持するとされたこと等から、地方交付税の削減等が懸念されることに加え、福祉・医療など社会保障関係費のほか、新幹線建設等に係る公債費がなお高い水準で推移すること等から、現時点で約32億円の要調整額が見込まれるなど、本県財政を取り巻く環境は厳しく、予断を許さない状況。

◎ マイナスシーリングの設定

- ゼロベースの見直しによる財政健全化の努力を継続するとともに、スクラップ&ビルドを徹底し、政策の重点化・効率化を促進

◎ 「とやま未来創生戦略推進枠」の設定

- 「とやま未来創生戦略2016」に基づき、人口減少対策や、将来に向け持続的な地域活力創出を図る施策で、高い効果が見込まれる取組みに重点配分

◎ 「とやま新時代チャレンジ枠」の創設

- 「富山県経済・文化長期ビジョン」に掲げる将来像や構想の実現に向けた施策や、北陸新幹線の開業により新時代を迎えた本県の新たな総合計画の策定を見据えたモデル的又は先行的な施策を積極的に推進するため、「とやま新時代チャレンジ枠」を創設し、「人が輝く 元気とやま」の創造のため高い効果が見込まれる取組みに重点配分

◎ 「水と緑の森づくり枠」の設定

- 引き続き、「森づくり条例」の趣旨に鑑み、「森づくりプラン」に即した緊要度が高く優先的に実施する必要がある施策を推進

なお、特別枠事業の推進にあたっては、市町村や産学官関係機関、県民と連携し、その潜在力を引き出す取組みとなるよう創意工夫を促す

※ 予算要求基準

1 重点施策経費

- (1) 「とやま未来創生戦略推進枠」・・・事業費で概ね25億円
- (2) 「とやま新時代チャレンジ枠」・・・要求上限は設けない
- (3) 「水と緑の森づくり枠」・・・「水と緑の森づくり税」の収入見込み額の範囲内

2 投資的経費

今後、明らかになる国の予算、地方財政計画等を踏まえ、予算編成過程で決定

3 一般行政経費（²⁸特別枠経費含む） Δ15%（²⁸: Δ20%）

4 経常的事務経費 Δ2%（=H²⁸）

5 試験研究費 Δ1%（=H²⁸）